

保育園・こども園の生活

中津市民間保育連盟
広報紙おさなご 第38号(2021)

(0・1・2歳児 表現活動編)

HPはこちらより→



～豊かな感性と表現～

美しいものや優れたもの、心を動かす出来事などに出会ったとき、そこから子どもが何かを感じる心を「感性」と呼び、そこで生まれた様々な思いや感情を、いろいろなものを使って表すことを「表現」といいます。様々な出会いや体験を通して、たくさんの喜びや感動・驚きなどを味わうことで感性は豊かになり、子どもたちは何かを表現したいと感じるようになっていきます。子どもは心の動きを声に出したり、身振りで表したり、楽器を鳴らしたり、クレヨンや絵の具を使って表現したりすることもあるでしょう。そのとき大事なことは、上手に描写したり再現したりすることではなく、自分が感じたことを自分なりに表そうとする気持ちです。表現することを子どもが楽しみ、好きになることが大切なのです。



てんこ～♪てんこ
(わらべ歌)

0歳児

0歳児は、快いときに一人で笑ったり、声を出したりします。首が据わり握力がつく4か月ごろになると、見た物に手を伸ばし、握ったり、振ったり、なめたりします。指先の力がつくと、小さなものをつまんだり、両手に玩具などを持って打ち合わせたりします。徐々に自分の体を自分で動かして子どもなりの表現を始めます。



みてみて！いい音だね～



～愛着関係を深めよう～

安定した生活の中で、わらべ歌や絵本の読み聞かせなど、大人の表情や声を通してゆっくりと関わる事で、子どもたちは声を出して喜びを表現します。その中で、心地よい気持ちのやり取りを経験できるようにします。

新聞ビリビリ～♪

～楽しもう室内あそび～

積み木やお絵かきは手を動かす練習になり、手先の器用さを養える遊びです。思い思いに作りあげたり、なぐり描きをしたりなど、自由に表現することを楽しむことで、感性を育むこともできます。おうち時間に取り入れてみてはどうでしょうか？



歌に合わせておうまのまねっこ



1歳児

1歳頃になると歩行が始まり好きな場所へ探索に出かけます。砂場では砂の感触を楽しみながら、スコップで砂をカップに詰めて、手首のスナップを効かせてひっくり返し、プリンができてと喜びます。泥んこ遊びから小麦粉粘土・フィンガーペイント・ブロック・クレヨンを使ったなぐり描きへと展開します。色々な経験を重ねることで、豊かな表現活動へと結びついていく時期です。

なにつくろうかな～

2歳児

2歳になると自分の体の動きをコントロールできるようになり、行動範囲が広がってきます。リトミックや踊りなど音楽に合わせて体を動かし自己表現したり、指先の機能が発達しハサミやのりを使ったりできるようになります。いろいろな経験を重ねていくことで、言葉の数も増え、模倣が盛んになり、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになります。



ももんちゃんポッポ～♪
(絵本のごっこあそび)



～○を描く～

横に手を振って線のなぐり描きをしていたのが、徐々に腕を回転させて描くようになり、丸を1つ1つ閉じて描くようになります。